

第3学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『市の様子の移り変わり』

(教科書：『小学社会3』p.140～155／学習指導要領：内容（4））

2. 小単元の目標

交通や公共施設が整備されたり、人口が増えたり、土地利用の様子が変わってきたりしていることを調べる活動を通して、熊本市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考えられるようにする。

3. 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・熊本市の交通や公共施設，土地利用や人口などの時期による違いについて，家族などへの聞き取り調査や地図などの資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，市の様子について理解している。 ・調べたことを年表などにまとめ，熊本市や人々の生活の様子の変化について理解している。	・交通や公共施設，土地利用や人口などの時期による違いに着目して，問いを見いだし，熊本市の様子や人々の生活について考え表現している。 ・交通や公共施設，土地利用や人口の今と昔を比較したり，相互を関連づけたりして，熊本市の様子や人々の生活の変化を考え表現している。	・熊本市の様子や人々の生活の移り変わりについて，予想や学習計画を立てたり，学習をふり返ったりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 ・学習したことをもとに，これからの熊本市の発展について考えようとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

熊本市は，1889年（明治22年）に市制・町村制が施行されたことにより発足した。以来，交通の整備や公共施設の建設，市町村合併等による人口増加を経て，現在，約74万人が住む政令指定都市となった。

本単元では，熊本市のまちづくりにおける道路整備の変遷を学習の軸とし，熊本市が，多様なニーズに対応した暮らしやすいまちへと移り変わってきたことや，少子高齢化社会について子どもたちに捉えさせる。道路整備は，土地の使われ方を変え，人口や公共施設の増加を促すため，人々の生活の向上に様々な形で密接に関わっている。

近年の熊本市では，横断歩道橋を作らないようになっている事実を取り上げる。歩道橋は1960年代以降，車の普及に伴って交通事故の発生件数が増加したため，歩行者の安全確保などを目的に全国で設置が進められた経緯があり，熊本市においてもこれまで整備が進められてきた。

モータリゼーションが進展した高度経済成長期は，人より車が優先された時代であり，渋滞の原因になる横断歩道の設置は認められにくかった中で，交通安全上重要な役割を果

たしてきた歩道橋が、近年は撤去の動きが全国的に広がりを見せている。これは、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の施行や少子高齢化の影響を鑑み、全ての人にとって利用しやすい歩行空間という、バリアフリー化やユニバーサルデザイン等の観点から検討がされるようになってきたからである。熊本市でも、九品寺歩道橋の階段の一部撤去や国府歩道橋、市立体育館前歩道橋の撤去が行われている。

以上のような道路整備の変遷を教材として、まちづくりにおける横断歩道橋の撤去の事実について追究することは、子どもが、市の様子に移り変わりを学習するのに適していると考ええる。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元の前半では、交通網、とくに道路を整備することによって、土地利用の変化や人口、公共施設の増加が促され、熊本市の様子が変わってきたことについて考えさせたい。前半の学習をとおして、「熊本市は、道路や歩道橋を作ったり増やしたりすることで、くらしやすいまちへと変わってきた」という一つの認識を持った子どもたちに、後半では、熊本市が、市立体育館前歩道橋を撤去した事実を提示することで、「熊本市は、道路や歩道橋を作ったり増やしたりしたからくらしやすくなってきたのに、なんで歩道橋をなくすのだろう」という率直な問いを持たせたい。

この問いを追究していく中で、熊本市が、多様なニーズに対応していることをおさえ、前半学習した道路、歩道橋について、利用する人の立場や時代によっては見方が変わることを確認したい。これらをきちんと踏まえて、熊本市のまちづくりの姿勢を学ぶことで、子どもたちも、多様化する社会に主体的に対応する力をもてることを期待した。

5. 小単元の指導（総時数 13 時間）

時 数	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
1	同 じ 場 所 を 撮 影 し た 昔 と 今 の 写 真 に 着 目 し、ま ち の 風 景 に 違 い が あ る こ と を 捉 え る。	○熊本駅の写真を見比べる。 ・人力車がみえる。 ・今とまったくちがう。 ○昔の熊本市はどのような様子だったか調べてみよう。 ・今は建物ばかりのところも、昔は田んぼや畑だったのだね。 学習問題 熊本市はどのように移り変わってきたのだろう。 ・家の人など身近な人に昔の様子をきいてみよう。	◎熊本駅の写真（明治 30 年代と現在） ◇昭和前半（～30 年代）を曾祖母が子どもの頃、昭和後半（30 年代～48 年頃）を祖父母が子どもの頃、平成（現在）として扱う。 ◎アプリ『昔の航空写真地図』 ◆昔と今の駅の風景を比較し、その違いを考え、学習問題をつくり、表現している。 （思・判・表／発言，ノート） ◆市の様子の変化を調べる学習問題について予想し、学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしている。（態／発言，ノート）
2	イ ン タ ビ ュ ー で わ か っ た こ と を 整 理 し、今と昔 の 違 い を 比 べ る 視 点 を 見 い だ し て い る。	○熊本市の今と昔の違いを整理しよう。 ・今と昔でどのようなことを比べていけばいいのだろう。 ・道路の広がり（交通）、土地の使い方（土地利用）、人口、公共施設について整理していこう。	◎聞き取り調査の結果 ◇わかったことをカテゴリ分けしながら板書をして示すようにする。 ◆熊本市の今と昔の違いについて、身近な人にインタビューしてわかったことを、整理してまとめている。 （知・技／ノート，発言）

3 5	交通・土地利用・人口・公共施設に着目して、写真や地図、グラフを比較したりして、時期による違いを捉える。	○熊本市の今と昔の違いを見つけよう。 ・道路ができるのと一緒にまわりの様子も変わってきている。 ・建物が増えた頃に人も増えている。 ・人が増えたから学校が建てられたのではないかな。	◎アプリ『昔の航空写真地図』 ◎『都市形成史図集 戦後編』（熊本市都市政策研究所，2016年） ◎人口グラフ（昭和20年・昭和43年・平成24年） ◇平成24（2012）年に熊本市は政令指定都市になっている。 ◆写真や地図の新旧を見比べたり，人口のグラフを読み取ったりして，わかったことをまとめている。（知・技／ノート）
6 7	道路と公共施設（歩道橋）の移り変わりを関連づけて捉える。	○道路の様子に着目して，昔と今の違いを比べよう。 ・道路ができることで，移動時間が短くなり便利になっていると思う。 ・道路が広くなるのはいいことだけど，交通事故は増えないのかな。 ○歩道橋が設置された理由を考えよう。 ・道路を整備して，歩道橋を増やしたりすることで，くらしやすいまちづくりがされたと思う。	◎道路分布図（九州地方整備局資料より教師作成） ◎交通事故発生状況のグラフ ◎歩道橋の写真 ◎歩道橋設置数のグラフ ◆道路と歩道橋（公共施設）に着目し，新旧の交通網地図を比較したりグラフを読み取ったりして，わかったことをまとめている。（知・技／発言，ノート） ◆道路と歩道橋（公共施設）を関連づけて考え，表現している。（思・判・表／発言，ノート）

8 ～ 9	歩道橋が撤去されている理由について、歩道橋にのぼる体験などをもとに考える。	○なぜ歩道橋を撤去するのか考えよう。 ・横断歩道だと車が渋滞してしまっていたよね、なぜだろう。 ・新しくつくるお金がないのかな。 ・お年寄りや足が不自由な人には使いづらいのではないかな。 ○インタビューしたり、実際に歩道橋にのぼったりして調べよう。 ・きついけどのぼれないわけではないよ。 ・うちのおじいちゃんはおひざが悪いから大変だと思う。 ・スロープがあってものぼりにくいと思う人もいるんじゃないかな。 ○市役所の人に聞いてみよう。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方で道路づくりを見直していたんだね。	◎歩道橋の様子が見える動画 ◎歩道橋が撤去されている様子の動画 ◆実際に体験したり、市役所の職員にインタビューしたりして、わかったことをまとめている。 (知・技／発言、ノート) ◆歩道橋にのぼった体験をもとに、歩道橋が撤去されている理由について考え、表現している。 (思・判・表／発言、ノート)
10 ～ 13	これまでの学習をもとに市の移り変わりについて話し合い、市のこれからの発展について、意識をもつ。	○熊本市の移り変わりについてふり返ろう。 ・お年寄りにもやさしい道路づくりをすることでさらにくらしやすい町になるように変わってきた。 ○これからのまちについて考えよう。 ・バリアフリーの考え方を知ったから、熊本市がこれからは誰もがくらしやすいまちになっていくことがよいと思う。	◆これまでの学習にもとづいて、これからの市の発展について考え、選択・判断して表現している。(思・判・表／発言、ノート) ◆生活の道具、交通、土地利用、人口、公共施設の移り変わりについての追究をふり返り、これからの学習に生かそうとしている。(熊／発言、ノート)

6. 本時の指導（第8時）

（1）本時のねらい

熊本市が歩道橋を撤去した理由について話し合うことを通して、多様なニーズに対応した道路づくりと暮らしやすいまちとのつながりを考え、表現することができる。

（2）本時の展開

時 配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◇留意点 ◆評価
5	○これまでの学習をふり返る。 T：熊本市はどのように変わってきていますか。 C：熊本市は、道路や歩道橋を作ったり増やしたりすることで、暮らしやすいまちへと変わってきた。 C：なのに、市立体育館前歩道橋や国府の歩道橋は最近撤去された。	◇熊本市の様子の変遷について、写真や動画で振り返る。
30	本時の問い 熊本市は、道路や歩道橋を作ったり増やしたりしたから暮らしやすくなってきたのに、なんで歩道橋をなくすのだろう。 ○熊本市が、歩道橋を撤去した理由について話し合う。 T：熊本市はなぜ歩道橋を撤去したのでしょうか。 C：うちのおじいちゃんは、歩道橋は利用しないと言っていたよ。歩道橋を使いにくい人がいるのではないかな。 C：お年寄りだけでなく、足が不自由な方や妊婦さんにとっても歩道橋を上り下りするのは大変だと思う。 C：歩行者で交通事故が多いのは、道路を横断する時だった。やっぱり歩道橋を通ったほうが安全だよ。 C：学校の階段みたいに、スロープ付きの歩道橋を作ろうとしているのではないかな。 C：歩道橋を一つ作るのに1億円くらいかかるみたいだよ。 C：歩く人も車も自転車も、みんなが使いやすい道路にすることを熊本市は考えているんじゃないかな。 C：熊本市が歩道橋をなくすのは、みんなが使いやすい道路にすることで、もっと暮らしやすい熊本市にするためではないかな。	◇まず班での発表を行い、個人の発表の場を確保する。 ◇自分の調べた事実（資料や写真）などをもとに発表できるよう助言する。 ◇子どもの思考の一助となるよう、意見は板書し、他の子どもの発言とつなげていく。 ◇必要に応じ、グラフや動画、写真等の資料提示を行う。

5	○話し合いで解決できなかったことや、次に話し合ってみたいことなどを確認する。 T：解決しなかったことは为什么呢。 直接，熊本市役所の人に聞いてみましょう。	◇次時に見通しを持たせる。
5	○本時の感想を書く。	◆自分の体験や，身近な人へのインタビュー，資料からわかったことをまとめている。 (知・技／発言，ノート) ◆歩道橋にのぼった体験や資料をもとに，歩道橋が撤去されている理由について考え，表現している。 (思・判・表／発言，ノート)